令和８年度地域連携周産期医療体制モデル事業
（無痛分娩連携モデル事業）

山内 正憲
東北大学麻酔科学・周術期医学分野　教授
日本周産期麻酔科学会　理事

2026年度宮城県周産期医療協議会
2026年10月27日（火）午後4時
宮城県庁会議室

本日の内容

- 無痛分娩の状況
- 無痛分娩の課題
- 2026年度無痛分娩の体制構築　宮城県モデル事業の状況
- 宮城県内における分娩施設の課題と支援ニーズ
- 2027年度の目標

無痛分娩とは

■分娩時の痛みを軽減

→ 社会的な関心とニーズが高まっている

安全性の確立

■妊産婦の身体的・精神的負担を和らげる

→ 脳血管・心疾患合併妊婦への対応

妊産婦の心身の負担軽減

■用語　無痛分娩 → 分娩時鎮痛

無痛分娩の課題

■ 無痛分娩の技術的な課題

- 効果の個人差
- 合併症，胎児モニターの解釈
- 分娩第2期の延長，陣痛促進薬の使用
- 吸引・鉗子分娩など産科的介入の増加

■ 施設・医師による違い

- 鎮痛方法
- 開始のタイミング
- 麻酔担当医の専門性の違い
- 産科医・助産師の習熟度
- 緊急時・合併症対応

■ 妊婦の課題

- 経済的負担
- 無痛分娩への理解

■ 行政の課題

- 国及び関係学会の検討結果を確認し、無痛分娩に関する実情を踏まえながら、県内周産期医療体制における無痛分娩の位置付けの整理

厚生労働省の広報

平成29年度厚生労働科学特別研究事業　「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」

「無痛分娩」を考える
妊婦さんとご家族の皆様へ



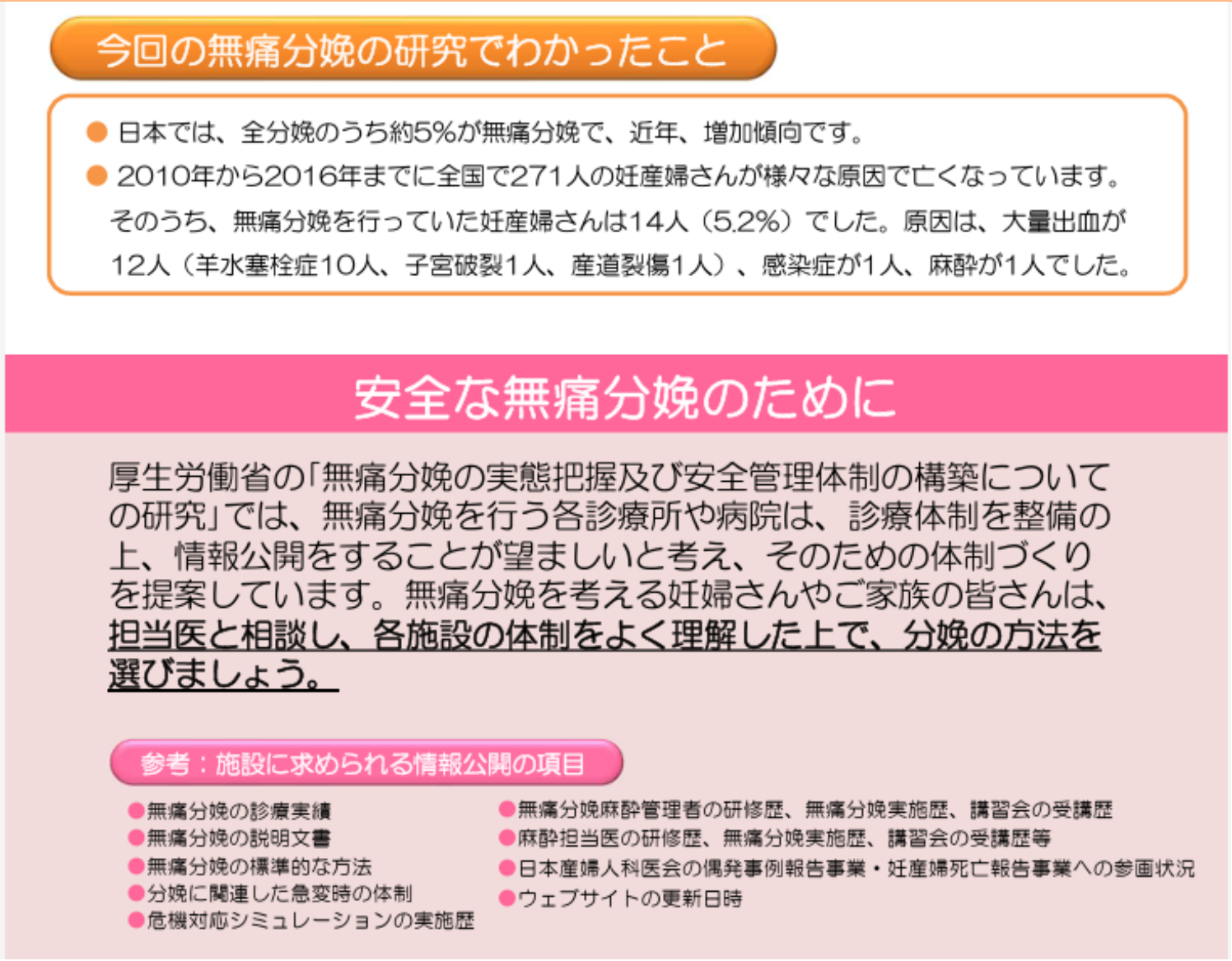
「無痛分娩」は陣痛の痛みを麻酔を使って和らげるお産の方法です。
ここでは一般的に行われる“硬膜外鎮痛法（こうまくがいちんつうほう）”という下半身の痛みを和らげる方法を説明しています。

無痛分娩のメリットは？

- 心臓や肺の調子が悪い妊婦さんの、呼吸の負担を和らげ、体の負担を軽くします。
- 血圧が高めの妊婦さんの、血圧の上昇を抑えることができます。
- 痛みを和らげることができ、産後の体力が温存できたと感じる人が多いと言われています。

https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001089301.pdf

厚生労働省の広報



今回の無痛分娩の研究でわかったこと

- 日本では、全分娩のうち約5%が無痛分娩で、近年、増加傾向です。
- 2010年から2016年までに全国で271人の妊産婦さんが様々な原因で亡くなっています。そのうち、無痛分娩を行っていた妊産婦さんは14人（5.2%）でした。原因は、大量出血が12人（羊水塞栓症10人、子宮破裂1人、産道裂傷1人）、感染症が1人、麻酔が1人でした。

安全な無痛分娩のために

厚生労働省の「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」では、無痛分娩を行う各診療所や病院は、診療体制を整備の上、情報公開をすることが望ましいと考え、そのための体制づくりを提案しています。無痛分娩を考える妊婦さんやご家族の皆さんは、担当医と相談し、各施設の体制をよく理解した上で、分娩の方法を選びましょう。

参考：施設に求められる情報公開の項目

- 無痛分娩の診療実績
- 無痛分娩の説明文書
- 無痛分娩の標準的な方法
- 分娩に関連した急変時の体制
- 危機対応シミュレーションの実施歴
- 無痛分娩麻酔管理者の研修歴、無痛分娩実施歴、講習会の受講歴
- 麻酔担当医の研修歴、無痛分娩実施歴、講習会の受講歴等
- 日本産婦人科医会の偶発事例報告事業・妊産婦死亡報告事業への参画状況
- ウェブサイトの更新日時

- メリット, リスク, 方法
- 研究による重症な随伴症
- 情報公開の重要性

→妊産婦と家族が選択できる体制

厚生労働省　2025年都道府県への再周知

医政地発 0515 第 1 号
令和 7 年 5 月 15 日

各 都道府県 保健所設置市 特別区 衛生主管部（局）長殿

厚生労働省医政局地域医療計画課長
（公印省略）

無痛分娩に関する取組の再周知について

無痛分娩については、「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」（平成 30 年 4 月 20 日付け医政総発 0420 第 3 号・医政地発 0420 第 1 号厚生労働省医政局総務課長・地域医療計画課長連名通知）及び「無痛分娩の安全な提供体制の構築について（補足）」（令和 3 年 7 月 5 日付け医政総発 0705 第 1 号・医政地発 0705 第 1 号厚生労働省医政局総務課長・地域医療計画課長連名通知）により、「無痛

無痛分娩の安全な提供体制

- 自主点検表
- JALA活動：研修，情報公開，研究

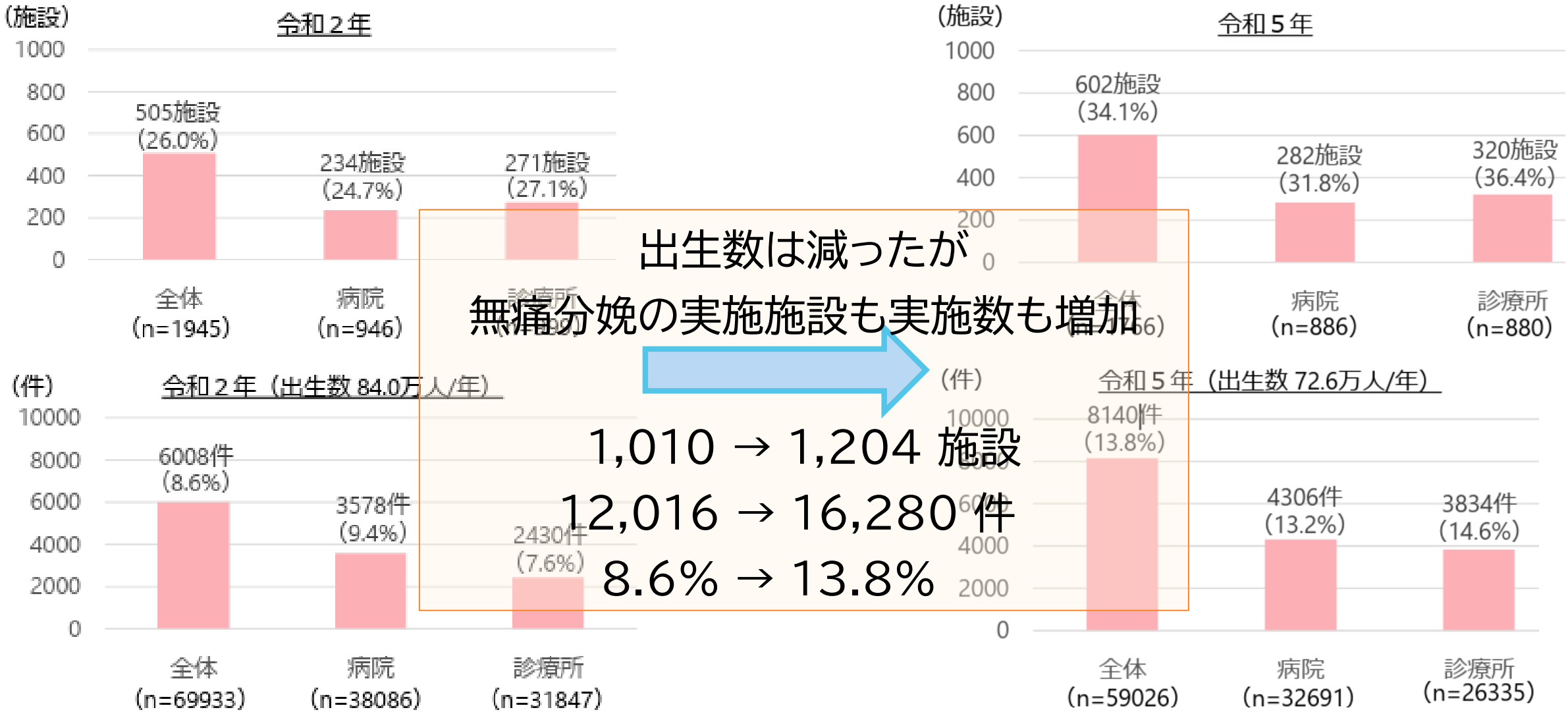
宮城県も基本的にこの活動を行う

厚生労働省　2026年資料



https://www.mhlw.go.jp/content/10802000/001658011.pdf

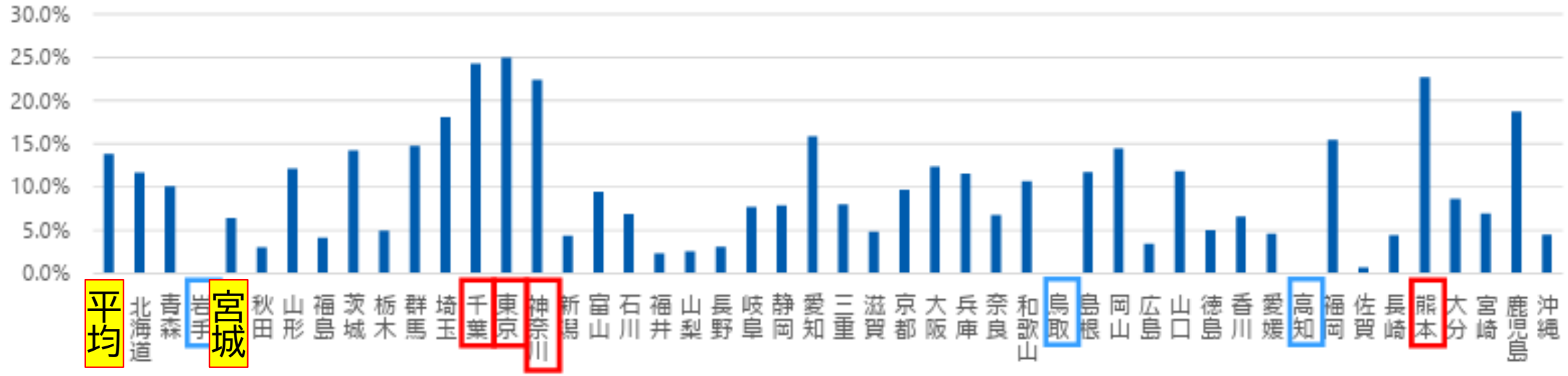
無痛分娩の実施状況


(施設)
令和２年
1000
800
600
400
200
0
505施設
(26.0%)
234施設
(24.7%)
271施設
(27.1%)
全体
(n=1945)
病院
(n=946)
(施設)
令和５年
602施設
(34.1%)
282施設
(31.8%)
320施設
(36.4%)
病院
(n=886)
診療所
(n=880)
出生数は減ったが
無痛分娩の実施施設も実施数も増加
1,010 → 1,204 施設
12,016 → 16,280 件
8.6% → 13.8%
(件)
令和２年（出生数 84.0万人/年）
10000
8000
6000
4000
2000
0
6008件
(8.6%)
3578件
(9.4%)
2430件
(7.6%)
全体
(n=69933)
病院
(n=38086)
診療所
(n=31847)
(件)
令和５年（出生数 72.6万人/年）
8140件
(13.8%)
4306件
(13.2%)
3834件
(14.6%)
全体
(n=59026)
病院
(n=32691)
診療所
(n=26335)

無痛分娩の実施割合　2023年

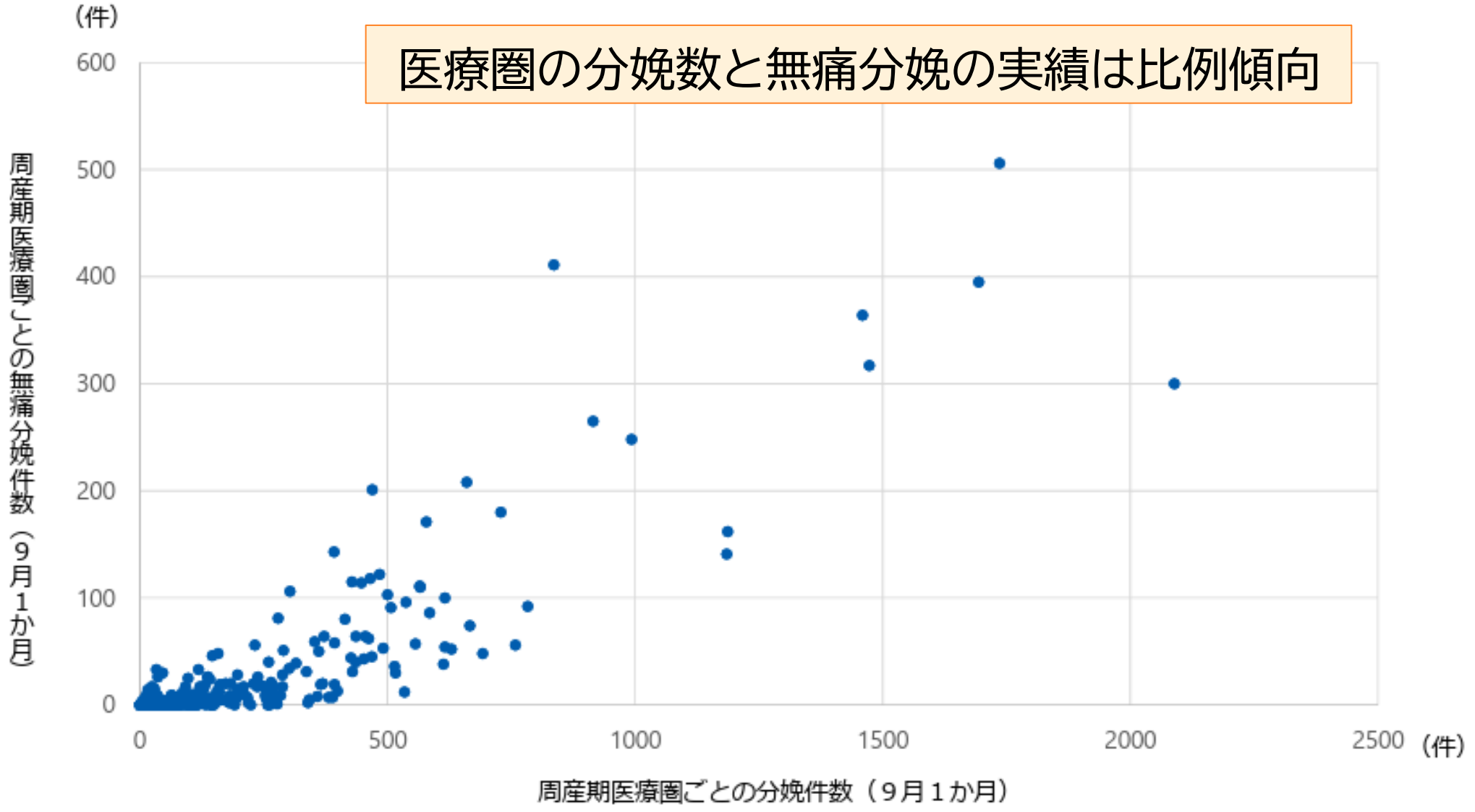
- 令和５年９月時点では、東京都、千葉県、神奈川県、熊本県では分娩のうち約25%が無痛分娩であるが、一方で岩手県、鳥取県、高知県では、無痛分娩は０件であった。なお、鳥取県と高知県においては、その後無痛分娩が実施されている。

医療機関での分娩のうち、無痛分娩（帝王切開を除く）の割合（令和５年９月の１か月の実績）



周産期医療圏ごとの無痛分娩の実施状況

医療圏の分娩数と無痛分娩の実績は比例傾向



8

※令和６年４月１日時点の周産期医療圏と、令和５年医療施設調査における９月１か月の実績を基に作成。

周産期医療の体制構築に係る指針

■母子に配慮した安全で質の高い周産期医療の提供体制

・自主点検表の作成

・JALAへの参画： 研修, 情報公開, 有害事象分析

・麻酔科医・産科医・助産師の習熟

・医療機関の実情を踏まえた対応を推進

東京都： 急変対応研修, 立ち入り検査

高知県： 高知大学麻酔科の人材育成を支援

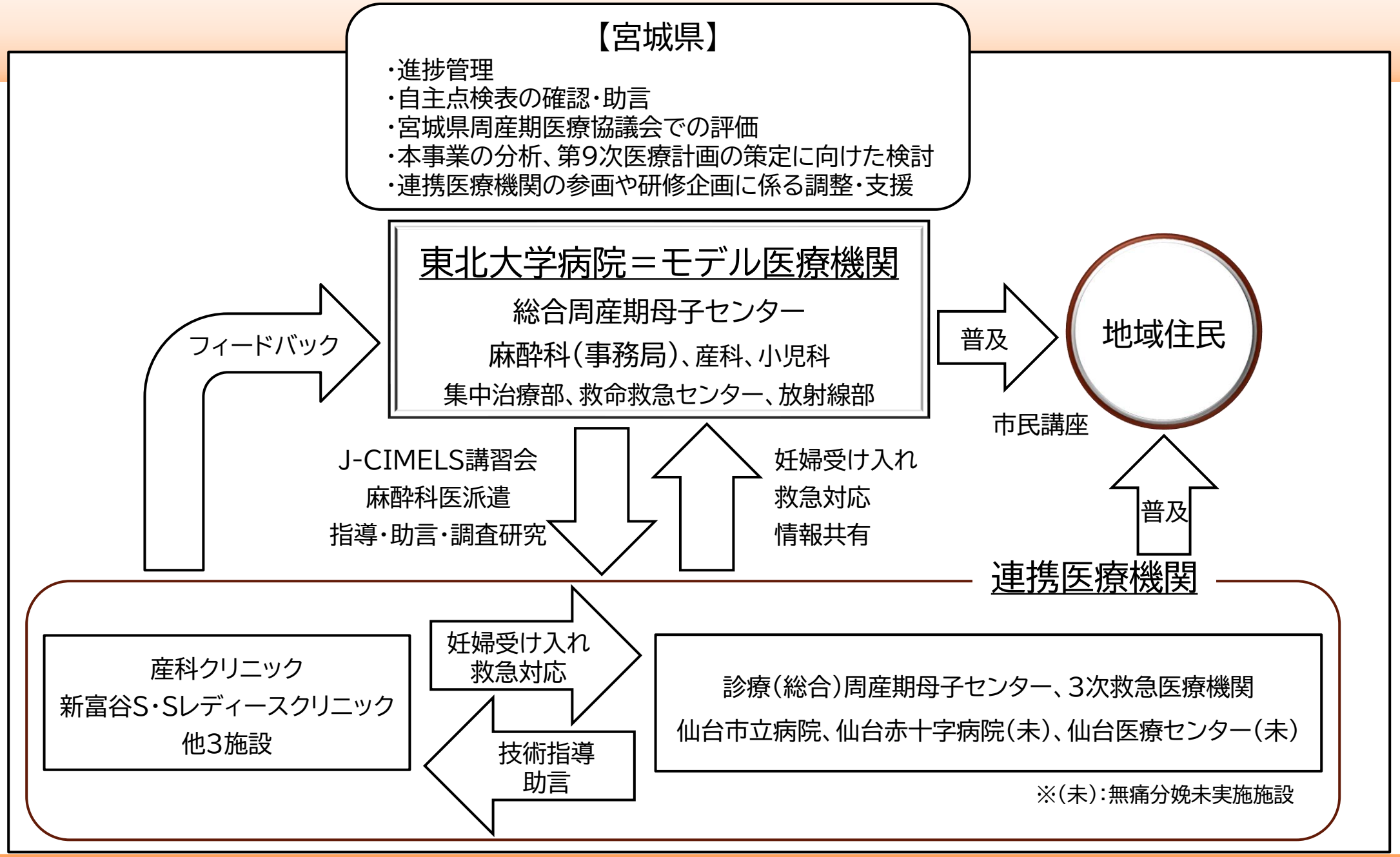
・安全な無痛分娩の実施： 外来, 助産師, 産後ケア, 母子保健

■費用の見える化と自己負担無償化

・妊婦の正しい理解の推進： リーフレットによる周知

・妊婦検診と出産費用の無償化への支援

令和8年度無痛分娩の体制構築宮城県モデル事業　安全で質の高い無痛分娩体制の構築と普及



宮城県　無痛分娩提供体制の構築：2026年度事業

- 安全体制の構築
  - 自主点検票の確認
  - 勉強会による情報交換
  - 第6回日本周産期麻酔科学会
  - J-CIMELS講習
- 情報公開：JALAのHPへの掲載
- 啓発活動：市民公開講座
- 麻酔科医の派遣（まだ充足していない）

施設名	麻酔科医数
東北大学病院	43
仙台市立病院	13
仙台医療センター	11
仙台赤十字病院	6
東北公済病院	7
宮城県立こども病院	6
大崎市民病院	11
石巻赤十字病院	9
気仙沼市立病	2
合　計	108名

宮城県　無痛分娩提供体制の構築

■ 本年度対象施設　7＋1施設

- 総合周産期母子センター：　東北大学病院, 仙台赤十字病院
- 地域周産期母子センター：　仙台市立病院、仙台医療センター
- 診療所：　新富谷SSレディースクリニック, メリーレディースクリニック
  セイントマザークリニック, わんや産婦人科
  関井クリニック

■ 東北公済病院：　すでに実施

■ 対象外の地域周産期母子センター, 診療所

来年度以降に施設の状況と人材育成によって安全重視で拡大を検討

宮城県　無痛分娩提供体制の構築：　勉強会の開催・参加

■ 東北大学病院勉強会
- 毎月1回　産科医, 麻酔科医, 助産師, 診療所の産科医・助産師

■ JALA・J-CIMELS講習会
- 10月3日(土)　カテゴリーC・J-MELSベーシックコース
- 10月4日(日)　カテゴリーB ・J-MELS硬膜外鎮痛急変対応コース

午前：医師向け, 午後：医療スタッフ向け

- 1月16日(土)　麻酔科医向けコース
- 2月20日(土)　初心者医師向けワークショップ, 助産師向けワークショップ
- 2月21日(日)　カテゴリーC・J-MELSベーシックコース

■ 学会派遣
- 9月19-20日：第31回日本心臓血管麻酔学会
- 11月12-14日：第46回日本臨床麻酔学会
- 2月20-21日：第6回日本周産期麻酔科学会　開催

宮城県　無痛分娩提供体制の構築：　市民公開講座

テーマ	無痛分娩を知ろう
日時	2027年2月21日(日) 16:00-17:00
会場	フォレスト仙台
対象	一般市民50-100名程度
共催	東北大学病院, 第6回日本周産期麻酔科学会
後援	宮城県, 宮城県産婦人科医会
講師	関根智宏(麻酔科医, 助教)
	富田美弥(産科医, 講師)
	吉田美香子(助産師, 教授)
司会	山内正憲(麻酔科医, 教授)

今後の取り組み

■2026年度

- 安全体制の構築
  - 勉強会による情報交換
  - J-CIMELS講習
- 質の向上
  - 第6回日本周産期麻酔科学会開催
  - 関連学会への参加
- 情報公開：JALAのHPへの掲載
- 啓発活動：市民公開講座
- 麻酔科医の派遣　計108名

■2027年度

- 安全体制の構築・麻酔担当医の育成
  - 勉強会による情報交換
  - JALA/J-CIMELS講習
  - 産科危機的出血の対応と施設連携
  - 新生児対応
- 質の向上：関連学会への参加・研究
- 情報公開：宮城県内の施設紹介
- 宮城県の無痛分娩の統計調査・解析
- 備品整備：気道・血管確保，モニター，記録